

**10月16日の牡鹿半島・金華山の地震**

久しぶりに緊急地震速報が流れる地震が発生しました。16日16時37分ごろ、金華山付近の深さ20kmでマグニチュード5.3の地震が発生しました。この地震で東北地方に緊急地震速報が発表されました。この地震は広い意味では東日本大震災の余震ですが、海陸境界域で発生しましたが、実際には熊本地震のような内陸活断層型の地震です。断層のずれ方も東日本大震災のような東西圧縮ではなく、南北に圧縮されて発生したようです。



下の図は防災科学技術研究所のウェブ（Hi-net 高感度地震観測網）の情報で、下にメカニズム解情報というものが記載されています。これが断層がどのようにずれたかを表すパラメータで、それを図示したものが右下の図です（地震学ではこの図をメカニズム解、通称ビーチボールと言っています）。この図により断層がどの向きにずれたのか、力がどのように働いたかが分かるようになっています。メカニズム解について、たとえば気象庁のウェブでは、

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/mech/kaisetu/mechkaisetu2.html>

防災科学技術研究所のウェブでは

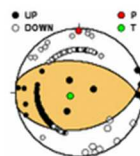
[http://www.hinet.bosai.go.jp/about\\_earthquake/sec3.2.html](http://www.hinet.bosai.go.jp/about_earthquake/sec3.2.html)

と解説されています。お時間のある時にご覧頂ければと思います。

震源地	金華山付近
震源時	2016/10/16 16:37:04.83
震央緯度	38.32N
震央経度	141.53E
震源深さ	20km
マグニチュード	5.4

**メカニズム解情報**

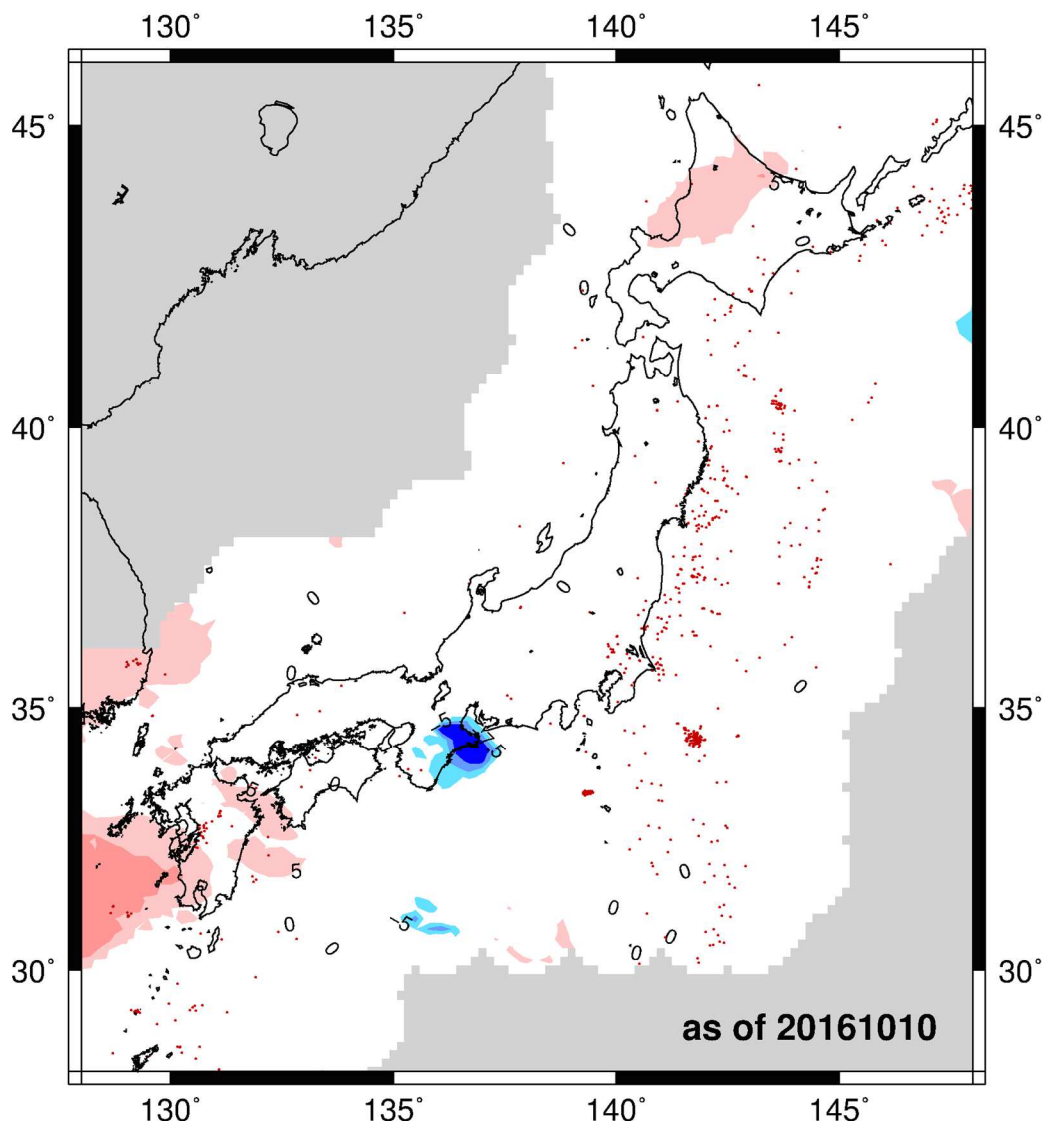
節面1 走向/傾斜角	280.1°/50.5°
節面2 走向/傾斜角	76.4°/42.0°
P軸 方位/鉛直角	359.1°/85.7°
T軸 方位/鉛直角	249.7°/12.8°





## 日本列島全域、特に海域にターゲットを絞った解析

下の地下天気図®は10月10日までのデータを解析したものです。同様の解析は8月15日付のニュースレターで行っていますが、この時にもわずかに紀伊半島に静穏化領域が出現し出していました。この静穏化が少し顕著となったようです。ただ、比較的この静穏化はパラメータをいくつか変更した解析ではさらに小さな異常となりますので、不安定な異常と考えています。注意は必要ですが、現時点では深刻ではないと考えています。下の図の小さな赤点は8月以降に発生したマグニチュード3.3以上の地震を示しています。朝鮮半島で小さな点があるのが9月のM=5.8を含む活動です。また9月23日からの房総沖での地震活動が目立つ事がわかります。



## 9月23日に発生した房総沖 M=6.7 地震の続報

9月23日に房総沖でM=6.7の地震が発生し、その後の推移に注目していますが、10月15日までのデータを用いた解析では、順調に余震活動は収束している事がわかりました。ただ比較的大ぶりの地震が引き続き発生しており、これは今後さらに大きな地震が発生する可能性がまだ存在している事を意味しています。